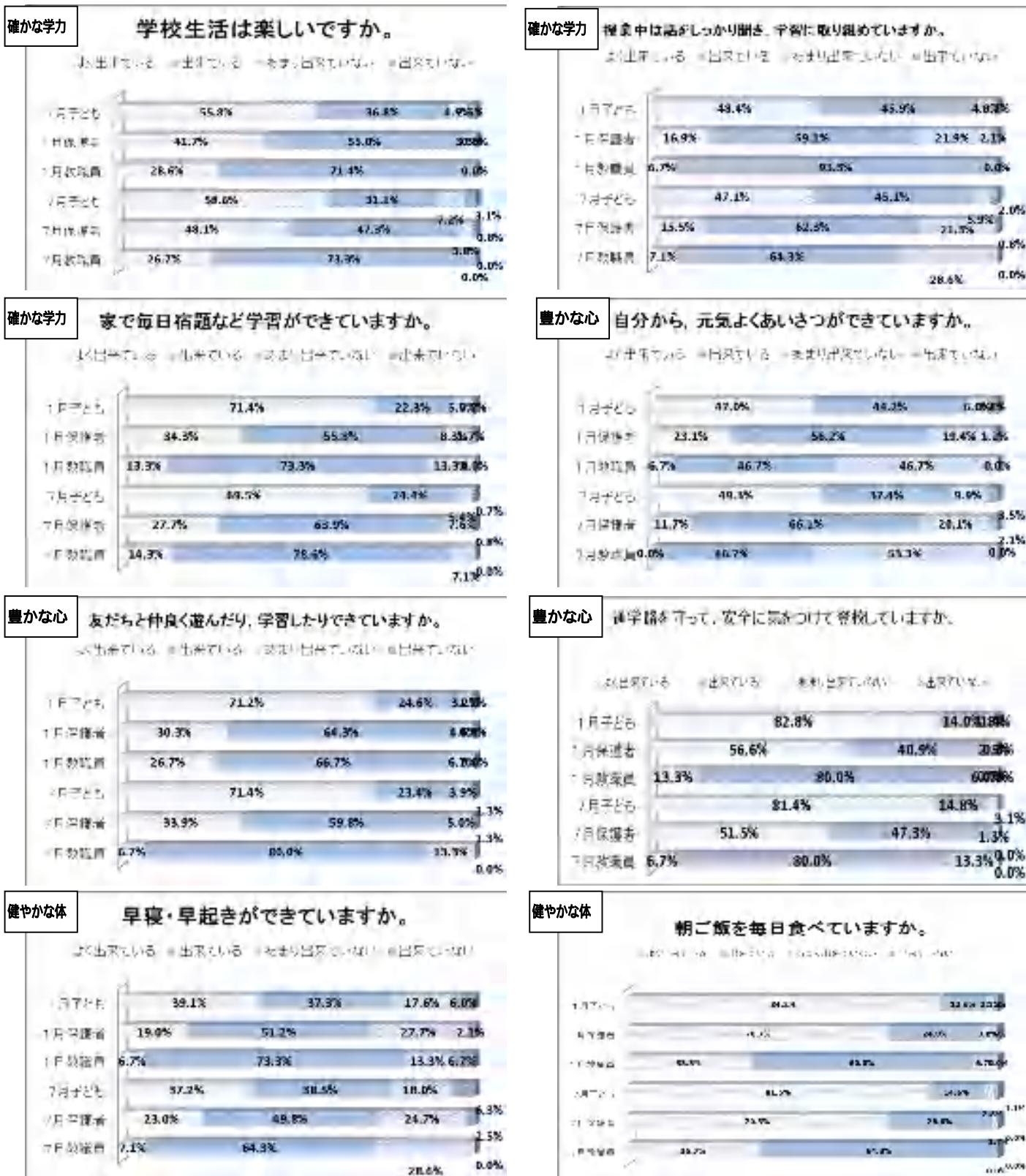


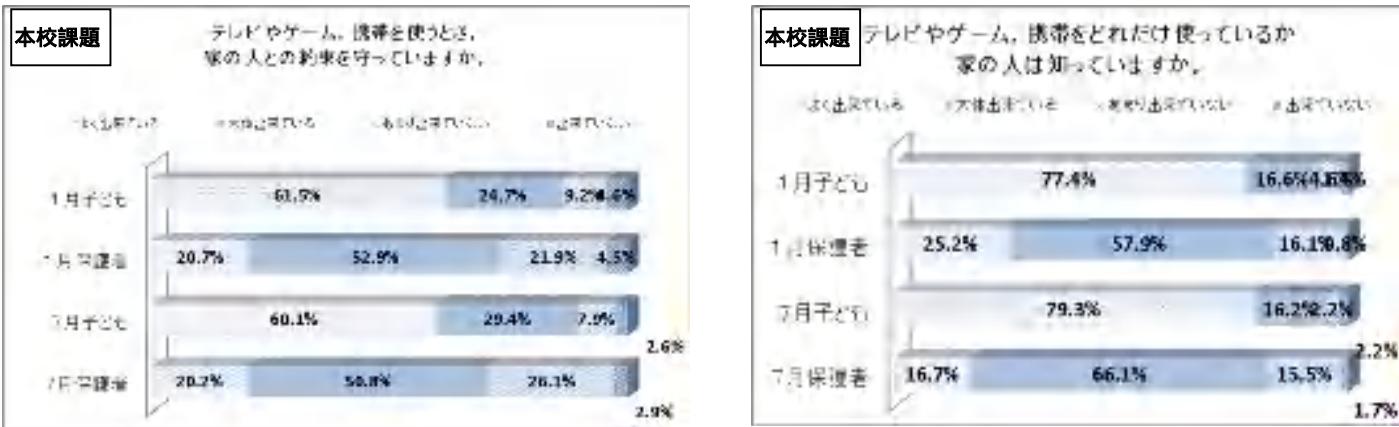
平成29年度後期 学校子育てアンケートについて

皆様には、日頃より学校教育活動に御理解・御協力有難うございます。

家庭と学校、地域が協力して、子どもたちの学校生活をより生き生きとしたものにするために1月に実施した、児童・保護者・教職員を対象の「学校子育てアンケート」の結果をお知らせいたします。今後の学校の取組の改善に生かしていきたいと考えています。

(「よく出来ている」「出来ている」を『肯定的評価』、「出来ていない」「あまり出来ていない」を『否定的評価』として表しています)





確かな学力について

学校を楽しいと感じている子どもが前期より若干増加し92%です。授業に対して、意欲的な児童も2.1%増加し94.3%いますし、教職員もそのように感じています。教職員の、意欲のもてる授業づくりを大切にしてきた結果と考えられます。家庭学習での考え方については、子どもと保護者の意識の差が見られます。子どもはできていると思っていますが、大人はできていないと考えています。家庭学習の習慣化は、本校の課題であります。今後も学校と家庭との連携で改善していきたいと思っています。

豊かな心について

地域の方に、子どもたちが元気よくあいさつをしていると言っていただけのことがあります。ご家庭での取り組みの表れでもあります。これからも、来校者や様々な場面に応じたあいさつを指導していきます。

若干ではありますが、友だちと仲良く過ごせない、通学路を守り安全に登校できていないという児童がいます。学校では引き継ぎ、道徳や学級活動の授業、町別集会を通して人と仲良く接することのよさ、安全の大切さ、何のためにルールやマナーがあるのかを子どもたちと共に考え、実行できるようにしていきたいと考えています。いつも子どもたちを見守っていただけてありがとうございます。

健やかな体について

気持ちのよいあいさつ、学習や生活への意欲、健康な体づくりなど、すべては基本的な生活習慣がってのことです。「あまりできていない」「できていない」と答えた児童に着目し、次の学年に向けて、市原野っこ週間の取り組みを通して生活習慣の振り返りや見直しをしていきます。

本校の課題について

前期と同様、子どもと保護者のとらえ方に、少し開きがあるところ、保護者が約束を守れていないととらえられているところが気になります。メディア依存は就寝時刻への影響のほか、学力・コミュニケーション力・語彙力の低下を引き起こすことを、今後も学校と家庭で共通理解し、問題にしていければと思います。

学校運営協議会理事会のご意見

- ・安全帽を子どもたちはよく被っています。連帯感が高まっている感じがします。
- ・このような結果を、親同士が横のつながりで共有されているのでしょうか。家庭の中で、親の友だち同士の中で情報交換をして、踏み込んだ話をされて、改善していったらいいと思います。
- ・おうちの方がしなければならないこと、時間がないために、今は子育てに専念できないような状況にある気がします。その中でも、地域の高齢者や親が活躍するのを見る場があれば、子どもたちは地域の担い手になっていくのではないでしょうか。子育てネットを広げる必要があると思います。
- ・メディアに関して、学校がすることは「情報モラル教育」、おうちですることは「管理」。両方が危機感をもって子どもと向き合うことが大事だと思います。